

Lecture-1 骨盤の解剖

骨盤内の解剖について正しいのはどれか（2007、2007 再試）

- a 子宮動脈は外腸骨動脈より分枝する。
- b 卵巢動脈は左右ともに内腸骨動脈より分枝する。
- c 右卵巢静脈は下大静脈へ、左卵巢静脈は左腎静脈へ流入する。
- d 内腸骨動脈の抹消端は円靭帯となる。
- e 卵巢・卵管のリンパ系は子宮円靭帯に沿い、まず閉鎖孔、腸骨節に流れる。

骨盤内の解剖について正しいのはどれか（2006）

- a 子宮動脈は外腸骨動脈の分枝である。
- b 尿管は子宮動脈の背側を通過した後に膀胱につながる。
- c 子宮動脈は子宮円靭帯の構成成分である。
- d 外腸骨動脈は基靭帯の構成成分である。
- e 仙骨子宮靭帯のことを Mackenrodt 靭帯ともいう。

骨盤内の解剖について正しいのはどれか（2007）

- a 子宮広間膜後葉に沿った後腹膜腔を尿管が走行する。
- b 尿管は子宮動脈との交差部で子宮動脈の腹側を走行する。
- c 卵巢固有靭帯は卵巢動静脈を含む。
- d 骨盤漏斗靭帯は子宮卵管角と卵巢を結ぶ。
- e 仙骨子宮靭帯は子宮頸側壁、膀胱，恥骨を結び，尿管がこの靭帯を貫通する。

骨盤内の解剖について正しいのはどれか。2つ選べ（2007 再試）

- a 尿管は子宮広間膜後葉に付着して、後腹膜腔を走行する。
- b 尿管は子宮動脈との交差部で子宮動脈の背側を走行する。
- c 卵巢固有靭帯は卵巢動静脈を含む。
- d 骨盤漏斗靭帯は子宮卵管角と卵巢を結ぶ。
- e 仙骨子宮靭帯は子宮頸側壁、膀胱，恥骨を結び，尿管がこの靭帯を貫通する。

外陰・膣について正しいのはどれか（2007、2006）

- a 女性の外尿道口はバルトリン腺の背側に位置する。
- b 会陰はバルトリン腺の腹側に位置する。
- c ダグラス窩穿刺は前膣円蓋から行う。
- d 膣粘膜は高円柱上皮からなる。
- e 女性の外尿道口は膣前庭に存在する。

リンパ系について正しいのはどれか（2006）

- a 子宮体部のリンパ系は子宮円靭帯に沿って傍大動脈節に流れる。
- b 子宮頸部のリンパ系は基靭帯に沿い閉鎖節、腸骨節に流れる。
- c 卵巢・卵管のリンパ系は子宮円靭帯に沿い閉鎖節、腸骨節に流れる。
- d 膣上部のリンパ系は浅鼠径筋に流れる。
- e 膣の下 1/3 の一次リンパ節と外陰の一次リンパ節とは異なる。

血管系について正しいのはどれか (2006)

- a 左卵巣静脈は通常下大静脈へ流入する。
- b 左卵巣動脈は通常左腎動脈から分岐する。
- c 右卵巣静脈は通常右腎静脈へ流入する。
- d 右卵巣動脈は通常右腎動脈から分岐する。
- e 膀胱子宮靱帯後層を通る膀胱静脈は深子宮静脈へ流入する。

Lecture-2 骨盤臓器の発生

骨盤臓器の発生について正しいのはどれか (2007、2006)

- a 子宮はミュラー管から発生する。
- b 卵管は尿生殖洞から発生する。
- c 卵巣はウォルフ管から発生する。
- d 膣の上 1/3 は尿生殖洞から発生する。
- e 膣の下 2/3 は未分化性腺から発生する。

正しいのはどれか (2007 再試、2005)

- a 出生児の性は受精の際の卵子の染色体で決定される。
- b 女性では性腺分化は発生 7 週から開始する。
- c 膣の上 2/3 は尿生殖洞より分化する。
- d 大陰唇と陰茎部尿道とは相同する。
- e 男児精巣からの性ホルモンは男性器分化にあずかる。

卵管について、正しいのはどれか (2007 再試、2005)

- a 卵管が子宮壁内を貫通する狭い部位を卵管胸部という。
- b 性腺原基から発生する。
- c 卵管壁は内膜、筋層、外膜の 3 層からなる。
- d 卵管采部で受精が起きる。
- e 卵管提索によって卵巣と結合している。

性分化異常について正しいものはどれか (2007、2007 再試)

- a 真性半陰陽では子宮は欠如する。
- b 副腎性器症候群では性染色体異常がある。
- c ターナー症候群では機能性子宮を欠如する。
- d クラインフェルター症候群では染色体は 47, XYY である。
- e 46, XX の染色体で外陰部が男性型のものを女性半陰陽という。

性分化異常について正しいものはどれか (2006)

- a 真性半陰陽では子宮は欠如する。
- b 副腎性器症候群では性染色体異常がある。
- c 精巣性女性化症ではアンドロゲン受容体に異常がある。
- d ターナー症候群では機能性子宮は欠如する。
- e クラインフェルター症候群では染色体は 47XX である。

Turner 症候群につき誤っているのはどれか (2005)

- a 片方の X 染色体の全部または一部を欠く。
- b 子宮は欠如している。
- c 知能は正常である。
- d 痕跡的な卵巣を認める。
- e 左心系の奇形がしばしば認められる。

精巣性女性化について正しいのはどれか (2007)

- a 子宮および膣が存在する。
- b 血中アンドロゲンは正常男性より低い。
- c 腹腔内や鼠径部に精巣が存在する。
- d アンドロゲン受容体の異常が認められる。
- e 性染色体は 47, XXY である。

精巣性女性化症候群につき正しいのはどれか (2007 再試、2005)

- a 遺伝的な性は女性 (XX) である。
- b テストステロンの分泌は低下する。
- c アンドロゲン受容体は正常である。
- d 恥毛および腋毛は欠如する。
- e 停留精巣の悪性化する頻度は低い。

女子の思春期についてもっとも遅く発現するのはどれか (2007、2007 再試)

- a 陰毛
- b 初経
- c 乳房の発達
- d エストロゲンの増加
- e FSH の増加

Lecture-3 内分泌

正しいのはどれか (2007 再試、2005)

- a FSH は卵胞期中期に最高値を示す。
- b FSH のβサブユニットは hCG のそれとは共通である。
- c FSH は黄体形成を促進する。
- d LH は卵胞発育を促進する。
- e GnRH は LH と FSH の分泌を調節する。

誤りはどれか (2006)

- a FSH は下垂体前葉の好塩基性細胞 (β細胞) から分泌される。
- b ゲスターゲン試験陽性はエストロゲンの分泌を反映している。
- c エストロゲンの前駆物質はアンドロゲンである。
- d エストロゲンは血液凝固能亢進作用を有する。
- e エストロゲンの過剰により多血症がおこる。

正しいのはどれか (2006)

- a FSH は成熟卵胞の排卵に関与する。
- b エストロゲンのピークは正常月経周期では LH のピークに先行する。
- c 原始卵胞は卵巣の髄質にある。
- d 成熟卵胞壁は内側から英膜細胞層、顆粒膜細胞層によって形成される。
- e 原始卵胞は年齢とともに減少するが枯渇することはない。

エストロゲンについて正しいのはどれか。2つ選べ (2007)

- a 主に卵巣莖膜細胞で産生される。
- b 高分子の水溶性ホルモンである。
- c アロマターゼ酵素の働きでアンドロゲンより変換される。
- d その受容体の大多数は細胞膜に存在する。
- e 性器組織以外の体細胞にもその受容体は存在する。

月経異常をきたす疾患と障害部位の組み合わせで正しいのはどれか。2つ選べ (2007、2007 再試 R)

- | | |
|----------------------|-------|
| a Kallman 症候群 | 視床下部性 |
| b 神経性食欲不振症 | 視床下部性 |
| c Turner 症候群 | 下垂体性 |
| d Chiari-Frommel 症候群 | 下垂体性 |
| e Asheman 症候群 | 卵巣性 |

正しいのはどれか (2006)

- a Kallmann 症候群は嗅覚低下、低ゴナドトロピン性性腺機能低下、高身長を呈する。
- b Sheehan 症候群では乳汁漏出を来たす。
- c Chiari-Frommel 症候群は非腫瘍性で分娩とは関係なく発症し、高プロラクチン血症を来たす。
- d 高プロラクチン血症による無月経にはドパミン拮抗薬が有効である。
- e 高プロラクチン血症による無月経は甲状腺機能亢進症に合併する。

Sheehan 症候群について正しいのはどれか (2005)

- a ゴナドトロピン分泌は上昇する。
- b LH-RH 試験では過剰反応を示す。
- c 高プロラクチン血症を合併する。
- d 多毛を認める。
- e 下垂体前葉の障害である。

無月経患者に LH-RH 負荷試験を行ったところ、LH 値がほとんど変化を示さなかった。可能性がもっとも高いのはどれか (2007、2007 再試)

- a 視床下部性無月経
- b 下垂体性無月経
- c 卵巣性無月経
- d 多嚢胞性卵巣症候群
- e 子宮性無月経

20 歳の女性。最近 1 年間の無月経を主訴として来院した。外診及び内診所見で特記すべきことはない。プロゲステロン負荷試験では消退出血を認めなかった。次に行うのはどれか (2005)

- a 結合型エストロゲン (プレマリン) 試験
- b クロミフェン試験
- c LH-RH 試験
- d hMG 試験
- e エストロゲン・プロゲステロン試験

体重減少性無月経で正しいのはどれか (2007)

- a 20%以上の体重の減少で起こる。
- b ゴナドトロピンの律動性分泌は正常である。
- c GnRH の分泌は正常である。
- d 血中レプチン値は上昇する。
- e 食行動の異常は認められない。

正しいのはどれか (2007 再試、2005)

- a 正常女性でも標準体重の-20%になれば無月経が起こる。
- b 体重減少性無月経では下垂体性無月経である。
- c 体重減少性無月経では卵胞数が減少する。
- d 体重減少性無月経では第 1 度無月経である。
- e 単純性体重減少性無月経ではカウンセリングが必要である。

神経性食欲不振症 (anorexia nervosa) について正しいのはどれか (2006)

- a 活動性が低下する。
- b 多毛がみられる。
- c 皮膚湿潤を認める。
- d るいそうと無月経を主訴とする。
- e 体重減少性無月経と同じ病態である。

多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) について正しいのはどれか。2 つ選べ (2007、2007 再試)

- a 第 2 度無月経である。
- b 血中テストステロンは低値である。
- c ゴナドトロピン療法では卵巣過剰刺激症候群 (OHSS) が起こりやすい。
- d 子宮頸癌発生の危険性が非 PCOS 患者よりも高い。
- e クロミフェン療法無効例には腹腔鏡下卵巣焼灼術 (多孔術) が適応となる。

多嚢胞性卵巣症候群 (PCOS) について誤りはどれか (2006)

- a LH-RH 負荷試験では LH は過剰反応、FSH は正常反応を示す。
- b 排卵誘発の第 1 選択薬はクエン酸クロミフェンである。
- c 薬物による排卵誘発が無効な場合には腹腔鏡下卵巣多孔術が行われる。
- d インスリン抵抗性との関連はない。
- e 卵巣被膜の肥厚による排卵障害、無月経となる。

次の療法の中で高プロラクチン血症を起こしうるのはどれか。2つ選べ(2007、2007再試)

- a 三環系抗うつ薬
- b ヒスタミン H₂ 受容体拮抗薬
- c カルシウム拮抗薬
- d β遮断薬
- e 経口避妊薬

子宮内膜につき正しいのはどれか(2007再試、2005)

- a 基底層は螺旋動脈に支配され周期的に変化する。
- b 増殖期にはエストロゲンの作用により子宮線は屈曲する。
- c 分泌期初期には核下空胞が認められる。
- d 増殖期には細胞には豊富なグリコーゲンを認める。
- e 月経期には基底層から脱落する。

増殖期の子宮内膜腺に特徴的な所見として正しいのはどれか(2006)

- a 偽重層
- b 腺の迂曲
- c 脱落膜変性
- d 核下空胞
- e 分泌像

基礎体温につき正しいのはどれか(2006)

- a 正常月経周期における低温相と高温相との温度差は2℃以上である。
- b 高温相では子宮内膜は増殖期像を呈する。
- c 高温相が7日以上の場合には黄体機能は正常と考えてよい。
- d 進行流産と子宮外妊娠との鑑別に有用である。
- e 無排卵患者に天然型プロゲステロン剤を投与すると基礎体温は上昇する。

経口避妊薬(ピル)が避妊以外の使用目的で効果を示さないのはどれか(2007)

- a 月経困難症
- b 性感染症予防
- c 機能性子宮出血
- d 月経日の人工移動
- e 子宮内膜症

低用量経口避妊薬(低用量ピル)について正しいのはどれか(2006)

- a 成分は GnRH アゴニストとエストロゲンとの合剤である。
- b 月経困難症に用いると症状が軽減される。
- c 子宮内膜癌の発生率が高くなる。
- d 避妊効果は IUD と同等である。
- e 血栓症の既往がある場合には慎重に投与する。

更年期女性に対するホルモン補充療法の禁忌はどれか（2007、2007 再試）

- a 血栓症の既往
- b カンジダ膣炎
- c 高脂血症
- d 軽度の高血圧
- e 肝血管腫

更年期女性に対するホルモン補充療法の絶対禁忌で正しいのはどれか（2006、2005）

- a 血栓症の既往
- b カンジダ膣炎
- c 高脂血症
- d 軽度肝機能障害
- e 子宮内膜症

閉経後女性に対するエストロゲンの効果として正しいのはどれか（2007）

- a 総コレステロール増加
- b 骨吸収抑制
- c 血液凝固機能低下
- d 心筋収縮力増加
- e 骨密度低下

閉経に関して正しいのはどれか（2007、2007 再試）

- a 閉経は視床下部の GnRH の低下により起こる。
- b 閉経後には血中 FSH は閉経前より低下する。
- c 閉経年齢は生活習慣や人種などにあまり関わりなくほぼ一定である。
- d 閉経前には骨密度は低下しない。
- e 閉経後にはエストロゲンは完全に消失する。

閉経後の女性に関係するもので正しいのはどれか（2006、2005）

- a 視床下部性無月経
- b 血中 LH 上昇、血中 FSH 上昇、血中エストロゲン低下
- c 外陰部バルトリン腺嚢胞
- d カンジダ膣炎
- e 子宮内膜の肥厚

更年期女性に特に好発する疾患あるいは病態はどれか（2005）

- a 骨軟化症
- b 高プロラクチン血症
- c 高血圧
- d 高脂血症
- e るいそう

血中カルシウム濃度の調節にもっとも関わるのはどれか (2005)

- a コルチゾール
- b バスプレッシン
- c 活性型ビタミンD
- d 甲状腺ホルモン
- e アルカリフォスファターゼ

正しいのはどれか (2007再試、2005)

- a 血中エストロゲンの低下は骨塩量の減少とは無関係である。
- b 肥満は骨粗鬆症のリスクファクターである。
- c 閉経後骨粗鬆症では、血清カルシウムが上昇する。
- d 腰椎圧迫骨折のレントゲン所見として、魚椎、楔状椎、扁平椎がある。
- e カルシウム剤の投与は骨粗鬆症の治療としては無意味である。

続発性骨粗鬆症の原因とならない疾患はどれか (2005)

- a 卵巣機能不全
- b Marfan 症候群
- c 吸収不良症候群
- d 癌の骨髄転移
- e 子宮筋腫

Lecture-4 子宮頸癌

子宮頸部の細胞診の判定と推定される病変の組み合わせで誤りはどれか。2つ選べ (2007、2007 再試 R)

- | | |
|---------|--|
| a クラス | 膣頸管炎など |
| b クラス a | HSIL (high grade intraepithelial lesion) |
| c クラス b | moderate dysplasia |
| d クラス | CIS (carcinoma in situ) |
| e クラス | SCC (squamous cell carcinoma) |

子宮がん検診について正しいのはどれか (2006)

- a 頸部細胞診でクラス b は高度異形成を疑う所見である。
- b 細胞診では病原微生物は発見されない。
- c 症状を有する場合に行うべきである。
- d 頸部細胞診で腺癌細胞を認めた場合には膣癌を疑う。
- e 子宮内膜の擦過細胞診は頸部のそれと比較して精度に優る。

子宮頸部病変の所見で誤りはどれか。2つ選べ(2007、2007 再試 R)

- a 軽度異形成では意形成上皮が扁平上皮層の下 1/2 にとどまっている。
- b 軽度異形成の細胞診・組織診では HPV の感染により細胞内に空洞を持つコイロサイト (koilocyte) が見られる。
- c 子宮頸部悪性腺腫は MRI で頸部に多発性の嚢胞が認められる。
- d 高度異形成では扁平上皮全層を異型細胞が置換する。
- e 性器ヘルペスでは多核巨細胞が見られる。

子宮頸癌のリスク因子で誤りはどれか(2007、2007 再試)

- a 早い初交年齢
- b 未産婦
- c 多数の異性との交遊
- d 喫煙
- e 経口避妊薬の使用

子宮頸癌のリスク因子で誤りはどれか(2006)

- a HPV
- b 喫煙
- c 初交年齢
- d 肥満
- e 性パートナー数

子宮頸部の前癌病変で誤りはどれか。2つ選べ(2007、2007 再試 R)

- a 軽度～中等度異形成の多くは自然治癒する。
- b 無症状であり、細胞診がきっかけで発見されるのがほとんどである。
- c HPV の 16 型、18 型は癌化リスクの低い低リスク型である。
- d 組織診(パンチ生検)は酢酸加工とコルポスコピー下で行われる。
- e CIS (carcinoma in situ) に対して準広汎子宮全摘術が行われる。

子宮頸癌について正しいのはどれか。2つ選べ(2007)

- a 子宮頸癌の発生に HPV が深く関与している。
- b 通常扁平上皮癌は頸部上皮内で癌化が起こり次第に間質に浸潤していく。
- c 近年、腺癌の発生は減少傾向にある。
- d 頸癌の卵巣転移は予後良好である。
- e 扁平上皮癌と腺癌の放射線感受性は同等である。

子宮頸癌について正しいのはどれか(2007 再試)

- a PAS 染色を用いた細胞診がスクリーニング法として確立されている。
- b 扁平 - 円柱境界内側の予備細胞の増殖や化生から異形成が発生し、さらに上皮内癌を経て浸潤癌
癌
が発生すると考えられている。
- c 近年、腺癌の発生は減少傾向にある。
- d 頸癌の卵巣転移は予後良好である。
- e 扁平上皮癌と腺癌の放射線感受性は同等である。

子宮頸癌に関する臨床進行期分類（日産婦 1997）で正しいのはどれか。2つ選べ（2007、2007 再試 R）

- a 腫瘍が頸部限局で長径が 1cm の場合は b2 期である。
- b 腫瘍が頸部以外に腔にのみ軽度の浸潤があれば a 期である。
- c 内診上、傍子宮組織に軽度浸潤が疑われれば b 期である。
- d リンパ節転移があれば c 期である。
- e 肺転移があれば a 期である。

子宮頸部組織診で扁平上皮癌と診断された患者において、『癌は頸部を越えて子宮傍組織浸潤を認めるが、浸潤は骨盤壁にまでは達しておらず、また腹壁浸潤も認めない。』という内診所見であった。子宮頸癌の臨床進行期分類で正しいのはどれか（2006、2005）

- a b1 期
- b b2 期
- c a 期
- d b 期
- e b 期

子宮頸癌について誤りはどれか。2つ選べ（2007、2007 再試 R）

- a 扁平上皮癌 a1 期か a2 期かは円錐切除により診断される。
- b 臨床進行期の決定にリンパ管造影が重要である。
- c 腺癌 b 期では広汎子宮全摘が行われる。
- d 期では放射線療法が行われることが多い。
- e 扁平上皮癌では CA125 が主なる腫瘍マーカーとして用いられる。

子宮頸癌について誤りはどれか。2つ選べ（2007、2007 再試 R）

- a b 期の 5 年生存率は 60% 程度である。
- b 広汎子宮全摘術では腔壁を十分に切除する。
- c 広汎子宮全摘術では基靭帯を骨盤壁まで切除する。
- d 扁平上皮癌に対する化学療法ではシスプラチンが用いられる。
- e 傍大動脈リンパ節は一次リンパ節である。

以下のリンパ節で子宮頸癌の一次リンパ節ではないのはどれか（2005）

- a 仙骨節
- b 閉鎖節
- c 基靭帯節
- d 内腸骨節
- e 外腸骨節

子宮頸癌の診断について正しいのはどれか（2006、2005）

- a PAS 染色を用いた細胞診がスクリーニング法として確立されている。
- b 一般に接触出血や性交後出血等の自覚症状は、上皮内癌まで進展するとほぼ全例に見られる。
- c 子宮頸癌の臨床進行期は、リンパ節転移の有無も含めた手術後の病理組織学的検索によって初めて決定する。
- d 子宮頸部を拡大して観察できるコルポスコピーは、狙い組織診の部位を決定するで有用である。

e 骨盤 MRI 検査は腫瘍が微小浸潤しているかどうかの診断に有用である。

子宮頸癌の臨床進行期と治療法の組み合わせで誤りはどれか（2006）

- a 0 期 —— 子宮頸部円錐切除術
- b a1 期 —— 単純子宮全摘術
- c a2 期 —— 子宮頸部円錐切除術
- d b1 期 —— 広汎子宮全摘術
- e b 期 —— 化学放射線療法

子宮頸癌の治療で正しいのはどれか（2006）

- a 扁平上皮癌 Ib1 期症例の広汎子宮全摘術においては、若年者でも卵巣摘出が必須である。
- b 子宮頸部円錐切除術は、術後の不妊や流産と関連しない。
- c 広汎子宮全摘術後には骨盤照射を全例に行なうことが望ましい。
- d 根治的放射線療法では、全骨盤外部照射と腔内照射を組み合わせる。
- e 腺癌は扁平上皮癌に比べ放射線感受性が高い。

子宮頸癌について正しいのはどれか（2005）

- a 20 代未婚の女性。円錐切除で上皮内癌の診断の場合には子宮全摘を行う。
- b 円錐切除で a2 期の診断。リンパ節郭清は全く考えなくてもよい。
- c リンパ節転移は期別分類に含まれないが、重要な予後因子である。
- d b2 期や b 期症例では無条件で広汎手術を行う。
- e b 期の頸癌には初回治療として広汎子宮全摘を施行するべきである。

子宮頸管を被覆する上皮組織はどれか（2006）

- a 移行上皮
- b 扁平上皮
- c 高円柱上皮
- d 線毛上皮
- e 立方円柱上皮

子宮頸部のヒトパピローマウイルス（HPV）感染で正しいのはどれか（2006）

- a HPV の 80 種類以上の型に分類されているが、その型分布は世界中でほぼ同じである。
- b HPV 感染の有無は血清抗体価で判定できる。
- c HPV は、HPV6 型、11 型など癌化のリスクの高い高リスク型と 16 型、18 型などの癌化リスクの低い低リスク型に分類できる。
- d HPV 感染者の全てが異形成 癌に進展するわけではなく、ウイルス感染および関連する遺伝子変化と同時に宿主側の免疫因子等が関与していると推測されている。
- e 現在臨床試験が行われ一部米国で承認された HPV ワクチンは、治療ワクチンである。

子宮頸部扁平上皮癌の自然史について誤りはどれか (2005)

- a 子宮頸部異形成のうち、高度異形成は 40～60%が上皮内癌以上の病変に進行するのに対し、軽度異形成の 50～60%は治療しなくとも自然消退する。
- b 子宮頸癌の癌化にはヒトパピロマーウイルス (以下 HPV) が関与するが、その中でも初期遺伝子である E6、E7 の関与が重要である。
- c HPV は、80 種類以上の型に分類されているが、HPV6 型、11 型など癌化のリスクの高い高リスク型と 16 型、18 型などの癌化リスクの低い低リスク型に分類できる。
- d 扁平-円柱上皮境界内側の予備細胞の増殖や化生から異形成が発生し、さらに上皮内癌を経て浸潤癌が発生すると考えられている。
- e HPV 感染者の全てが異形成 癌に伸展するわけではなく、ウイルス感染および関連する遺伝子変化と同時に宿主側の免疫因子等が関与していると推測されている。

正しいのはどれか (2005)

- a わが国の子宮がん検診受診率は欧米より高く、対象人口の 80%に達している。
- b 現在臨床試験が行われ、一部米国で承認された HPV ワクチンは治療ワクチンである。
- c 1 種類の高リスク型 HPV に対するワクチンで、全世界の子宮頸癌の 80%以上をカバーできる。
- d 子宮頸部扁平上皮癌の腫瘍マーカーとして有用なのは SCC 抗原である。
- e 進行頸癌患者に対して転移診断の目的で、FDG-PET は有用であるが、いまだ保険では認められない。

Lecture-5 子宮体癌

子宮体部病変の MRI 画像で誤りはどれか。2つ選べ (2007、2007 再試 R)

- a 子宮体癌 子宮内膜の肥厚
- b 子宮体癌 junctional zone の途絶
- c 子宮筋腫 辺縁が不明瞭な類円形の腫瘤
- d 子宮筋腫 T1 強調画像で高信号の腫瘤
- e 子宮腺筋症 不明瞭な junctional zone

子宮体癌について誤りはどれか。2つ選べ (2007、2007 再試 R)

- a 危険因子として肥満、多産、糖尿病、高血圧などが挙げられる。
- b 60 歳代での発生頻度が最も高いとされている。
- c 本邦での若年子宮体癌の実数は増加している。
- d エストロゲン・プロゲステロン併用補充療法は子宮体癌の発癌リスクを下げる。
- e 若年子宮体癌では早発例が多いといわれている。

次の中で正しい組み合わせはどれか（2005）

- (1) エストロゲンによって子宮内膜が増殖する。
 - (2) 多嚢胞卵巣症候群の患者は子宮体癌の発生リスクが高い。
 - (3) unopposed estrogen が子宮内膜癌発生の大きな要因と考えられる。
 - (4) 子宮内膜増殖症の子宮内膜癌への進展リスクは約 50%程である。
 - (5) 子宮内膜増殖症では子宮体癌への伸展リスクが高いため、積極的に予防的な子宮全摘術を施行する。
- a 1, 2, 3 b 1, 2, 5 c 1, 4, 5
d 2, 3, 4 e 3, 4, 5

本邦での子宮体癌について正しい組み合わせはどれか（2005）

- (1) 発生数が増加している。
 - (2) 発生数は子宮頸癌とほぼ同等となった。
 - (3) 死亡率は、子宮頸癌より高い。
 - (4) 発生数は欧米より少ない。
 - (5) 死亡率は卵巣癌より低い。
- a 1, 2, 3 b 1, 2, 5 c 1, 4, 5
d 2, 3, 4 e 3, 4, 5

子宮体癌について誤りはどれか（2007、2007 再試）

- a エストロゲン依存性と非依存性の 2 タイプがあり、一般に前者の予後は良好である。
- b type 1 体癌では type 2 体癌に比べて DNA 修復遺伝子異常の頻度が高い。
- c type 1 体癌では癌抑制遺伝子である p53 遺伝子変異が高頻度に検出される。
- d type 1 体癌では PTEN 遺伝子変異が高頻度に検出される。
- e type 1 体癌では K-ras 遺伝子変異は稀である。

子宮体癌について正しいのはどれか（2006）

- a エストロゲン依存性と非依存性の 2 タイプがあり、一般に前者の予後は不良である。
- b type 1 体癌では DNA 修復遺伝子異常は稀である。
- c type 1 体癌では癌抑制遺伝子である p53 遺伝子変異が高頻度に検出される。
- d type 1 体癌では PTEN 遺伝子変異が高頻度に検出される。
- e type 1 体癌では K-ras 遺伝子変異は稀である。

子宮体癌について正しい組み合わせはどれか（2005）

- (1) 危険因子として肥満、多産、糖尿病などが挙げられる。
 - (2) エストロゲン・プロゲステロン併用補充療法は子宮体癌の発癌リスクを上げない。
 - (3) エストロゲン依存性と非依存性の 2 つのタイプがあり、一般に後者が予後不良である。
 - (4) 乳癌の術後治療にタモキシフェンを使用する患者は、子宮体癌の発生の高危険群である。
 - (5) type I 体癌では癌抑制因子である p53 遺伝子の変異が高頻度に検出される。
- a 1, 2, 3 b 1, 2, 5 c 1, 4, 5
d 2, 3, 4 e 3, 4, 5

子宮体癌について誤りはどれか。2つ選べ(2007、2007再試R)

- a 非類内膜腺癌の中で最も多い組織型は漿液性腺癌である。
- b 漿液性腺癌の予後は一般に類内膜腺癌より不良である。
- c 類内膜腺癌において充実性増殖の閉める割合が50%を超える場合、G3と判定する。
- d CA125の腫瘍マーカーとしての有用性は卵巣癌と同等である。
- e 超音波断層検査で筋層浸潤の有無を診断する。

子宮体癌について正しいのはどれか(2006)

- a 非類内膜腺癌の中で最も多い組織型は明細胞腺癌である。
- b 漿液性腺癌の予後は一般に類内膜腺癌より不良である。
- c 類内膜腺癌において充実性増殖の占める割合が80%を超える場合、Grade 3と判定する。
- d 腫瘍マーカーとしてCA125の有用性は卵巣癌と同等である。
- e MRI検査で脈管侵襲の有無を診断する。

子宮体癌について誤りはどれか(2007、2007再試)

- a 筋層浸潤が1/2を超える場合にはc期に分類される。
- b 頸部間質浸潤はb期に分類される。
- c 腔転移はb期に分類される。
- d 浅鼠径リンパ節転移陽性はc期に分類される。
- e 傍大動脈リンパ節転移陽性はc期に分類される。

子宮体癌について正しいのはどれか(2006)

- a 子宮体癌の進行期は、無痛と同様に術後の病理組織学的所見によって決定される。
- b 腹腔洗浄細胞診陽性はc期に分類される。
- c 腔転移はc期に分類される。
- d 浅鼠径リンパ節転移陽性はb期に分類される。
- e 傍大動脈リンパ節転移陽性はb期に分類される。

子宮体癌について誤った組み合わせはどれか(2005)

- (1) 子宮筋層1/2を超えない浸潤がある場合はb期である。
 - (2) 手術により骨盤外に腹膜病変の存在が判明した場合はa期となる。
 - (3) 子宮頸部間質浸潤がある場合はa期である。
 - (4) 腔転移がある場合にはc期である。
 - (5) 腹水細胞診が陽性の場合にはa期である。
- a 1, 2, 3 b 1, 2, 5 c 1, 4, 5
d 2, 3, 4 e 3, 4, 5

子宮体癌について誤りはどれか(2007、2007再試)

- a 一般に、放射線治療に対する感受性は子宮頸部扁平上皮癌よりも劣る。
- b 一般に、期の治療成績は期卵巣癌の治療成績と同等である。
- c 化学療法としてはアドリアマイシン+シスプラチンが有効とされている。
- d 化学療法に対する感受性は絨毛癌に劣る。
- e 卵巣癌と同様の化学療法薬が用いられている。

子宮体癌の治療について正しい組み合わせはどれか(2005)

- (1) 子宮体癌の第一選択の治療は手術療法である。
 (2) 術後補助療法として、欧米では化学療法が主流である。
 (3) 術後補助療法として、本邦では放射線療法が主流である。
 (4) 放射線感受性は子宮頸部扁平上皮癌に劣ると考えられる。
 (5) typeI 子宮体癌では時にホルモン療法を考慮すべきである。
- a 1, 2, 3 b 1, 2, 5 c 1, 4, 5
 d 2, 3, 4 e 3, 4, 5

子宮体癌の補助療法について正しい組み合わせはどれか (2005)

- (1) 従来より本邦では、化学療法として CAP 療法が一般に施行されてきた。
 (2) タキサン系製剤の有効性が確認され、現在広く用いられている。
 (3) 化学療法の閉める役割は卵巣癌と同等と考えられる。
 (4) 子宮頸癌と同様に抗癌剤併用放射線療法が進行癌症例に広く用いられてきている。
 (5) 卵巣癌と同様にプラチナ製剤が key drug の一つとして用いられる。
- a 1, 2, 3 b 1, 2, 5 c 1, 4, 5
 d 2, 3, 4 e 3, 4, 5

子宮体癌について正しいのはどれか (2006)

- a 60 才以上の高齢者での発生頻度が最も高いとされている。
 b 本邦での若年子宮体癌の実数は減少している。
 c 危険因子として肥満、未産、糖尿病などが挙げられる。
 d 経口避妊薬服用は子宮体癌の発癌リスクを上げる。
 e 若年子宮体癌の多くはエストロゲン非依存性であり、予後良好である。

子宮体癌について正しいのはどれか (2006)

- a 放射線療法が標準治療である。
 b わが国における年間罹患数は約 2500 人である。
 c 子宮体癌患者の約半数に不正性器出血が認められる。
 d 化学療法に対する感受性は絨毛癌よりも高い。
 e 診断の確定は子宮内膜組織診で行われる。

Lecture-6 卵巣腫瘍・外陰癌

卵巣腫瘍が悪性であることを示唆するものとして関連がないものはどれか (2007、2007 再試)

- a CRP (C-reactive protein) の上昇
 b 腫瘍マーカーの上昇
 c CT、MRI での強い造影効果
 d 腹水の存在
 e 両側性の充実性部分の存在

卵巣腫瘍について正しいのはどれか (2007、2007 再試、2006、2005)

- | | | |
|---|---------|---------------|
| a | 漿液性嚢胞腺癌 | 血清 CEA 値上昇 |
| b | 粘液性腺癌 | チョコレート嚢胞からの発生 |
| c | 明細胞腺癌 | 内部に毛髪や皮脂の存在 |
| d | 顆粒膜細胞腫 | 閉経後の性器出血 |
| e | 未分化胚細胞腫 | 化学療法が無効 |

卵巣腫瘍の組織学的特長で誤りはどれか (2007、2007 再試、2006)

- | | | |
|---|---------------|---------------------|
| a | 顆粒膜細胞腫 | Call-Exner body |
| b | 未分化胚細胞腫 | Schiller-Duval body |
| c | 明細胞腺癌 | hobnail cell |
| d | Krukenberg 腫瘍 | signet-ring cell |
| e | Brenner 腫瘍 | coffee-bean nuclei |

卵巣悪性腫瘍を疑う CT 所見として誤りはどれか (2007、2007 再試、2006、2005)

- 脂肪を伴う石灰化
- 嚢胞内への突出像
- 腫瘍壁の不規則な肥厚
- 腹水の存在
- 両側性の充実性腫瘍

卵巣癌について正しいのはどれか (2007、2007 再試、2006)

- 腹腔内に広がった進行症例における手術療法の意義はない。
- リンパ節転移の有無は予後と関連しない。
- 寛解療法導入終了後にはセカンドルック手術が予後改善のために必須である。
- 期症例で、手術終了時に残存がなければ化学療法は省略できる。
- 再発すると腹水貯留、腸閉塞となることが多く QOL の低下につながる。

進行卵巣癌の予後因子について誤りはどれか (2007、2007 再試、2006、2005)

- FIGO stage は重要な予後因子である。
- 化学療法の奏効率の低い組織型は予後不良である。
- 初診年齢が若いほど予後不良である。
- 初回手術時残存腫瘍が 2cm 以上は予後不良である。
- 組織学的悪性度 Grade3 は予後不良である。

卵巣癌 (漿液性腺癌) IIIc 期の術後化学療法として標準的に用いられるのはどれか (2006)

- シスプラチン・アドリアマイシン・サイクロフォスファミド
- シスプラチン・5FU
- パクリタキセル・カルボプラチン
- シスプラチン・イリノテカン
- ゲムシタビン・ドセタキセル

外陰癌について誤りはどれか（2007、2007 再試）

- a 深鼠径リンパ節が所属リンパ節である。
- b 放射線療法が第一選択の治療と考えられる。
- c 扁平上皮癌の頻度が最も高い。
- d HPV との関連が指摘されている。
- e 閉鎖リンパ節は所属リンパ節ではない。

外陰癌について正しいのはどれか（2006）

- a 浅鼠径リンパ節が所属リンパ節である。
- b 放射線療法で治癒できる例が多い。
- c 腺癌の頻度が最も高い。
- d ヒトパピロームウイルスとの関連はない。
- e 閉鎖リンパ節が所属リンパ節である。

Lecture-7 絨毛性疾患

絨毛性疾患について誤りはどれか（2007）

- a hCG 値の測定が診断、治療効果判定に重要である。
- b 侵入奇胎の場合には妊孕性温存を希望する場合には化学療法による治療を図る。
- c 卵巣が腫大する場合には第一に転移を考慮する。
- d 遠隔転移の検索は重要である。
- e つわりの症状が強く出ることが多い。

絨毛性疾患について正しいのはどれか（2006）

- a hPL 値の測定が診断、治療効果判定に重要である。
- b 侵入奇胎の場合には、妊孕性温存希望の有無によらず子宮摘出をすべきである。
- c 卵巣が腫大する場合にはまず手術を考慮する。
- d 遠隔転移の検索は重要である。
- e 胞状奇胎でつわりの症状が強く出現することは少ない。

絨毛性疾患について誤りはどれか（2007）

- a 部分胞状奇胎の核型は 46, XY である。
- b 東南アジアでの発生頻度は欧米よりも高い。
- c 絨毛癌における化学療法の奏功率は一般的に非常に高い。
- d 絨毛癌に対する化学療法薬としてはメトキシサレートが広く用いられている。
- e 絨毛癌診断スコアでは、肺転移は高スコア（5点）とされる。

絨毛性疾患について正しいのはどれか（2006）

- a 部分胞状奇胎の核型は 46XX である。
- b 東南アジアでの発生頻度は欧米でのそれよりも低い。
- c 絨毛癌における化学療法の奏効率は一般的に非常に高い。
- d 絨毛癌に対する化学療法薬としてはタキサン系薬剤が広く用いられている。
- e 絨毛癌の病理組織所見では絨毛構造を認める。

全胞状奇胎について誤りはどれか（2007再試、2005）

- a 胎児の存在は認められない
- b 奇胎組織は絨毛形態を認める。
- c 絨毛の子宮壁内侵入は認めない。
- d 悪阻症状が強い
- e 半数が3倍体、半数がトリソミーである。

侵入奇胎・絨毛癌について誤りはどれか（2007再試、2005）

- a 絨毛癌診断スコアが5点以上の場合、絨毛癌と診断する。
- b 組織診で絨毛形態を認めなければ絨毛癌である。
- c 侵入奇胎、絨毛癌のいずれにおいても先行妊娠は胞状奇胎が多い。
- d 侵入奇胎の場合には、まず子宮内容除去術を行う。
- e 絨毛癌にはメソトレキセート（MTX）による化学療法が有効である。

Lecture-8 子宮筋腫

以下に示す MRI 所見のうち、子宮筋腫の典型的所見はどれか（2007）

- a T1 強調画像で高信号、T2 強調画像で高信号である。
- b T1 強調画像で高信号、T2 強調画像で低信号である。
- c T1 強調画像で低信号、T2 強調画像で低信号である。
- d T1 強調画像で低信号、T2 強調画像で高信号である。
- e T1 強調画像で中等度信号、T2 強調画像で高信号である。

子宮筋腫について正しいのはどれか（2007、2007 再試）

- a HPV 感染が発生に重要な役割を果たしている。
- b 肥満が発生のリスク因子である。
- c 閉経後に増大することが多い。
- d ゴナドトロピン放出ホルモン作動薬が治療薬として用いられる。
- e 漿膜下筋腫は粘膜下筋腫に比較して過多月経を起こしやすい。

子宮筋腫について正しいのはどれか（2006）

- a 筋腫分娩は漿膜下筋腫に発生する。
- b 閉経後には筋腫は発育を停止する。
- c 筋腫はエストロゲンで増悪し、プロゲステロンで軽快する。
- d 子宮筋腫を有する婦人は全体の 20% 以下である。
- e 子宮の平滑筋腫は高率に肉腫へと変化する。

子宮筋腫の手術（治療）適応について正しくないのはどれか（2006）

- a 過多月経・貧血
- b 不妊
- c 気胸
- d 頻尿・排便障害
- e 強い月経困難

Lecture-9 子宮内膜症・子宮腺筋症

卵巣に発生した子宮内膜症について正しいのはどれか（2007）

- a この場合を特に子宮腺筋症という。
- b MRI による嚢胞所見は通常、T1 強調画像で高信号であり、脂肪抑制画像により信号は低下する。
- c 血清 CA125 が高値を示すことは少ない。
- d 悪性転化することがある。
- e 生殖可能年齢における通常の外科的治療は付属器切除（卵巣、卵管切除）である。

子宮内膜症の一般的な症状として誤っているのはどれか。2つ選べ（2007）

- a 無月経
- b 子宮内膜ポリープ
- c 性交痛
- d 不妊
- e 下腹痛

子宮内膜症と関係のない用語はどれか（2007）

- a ブルーベリースポット
- b ダグラス窩閉塞
- c アデノミオーシス
- d ダナゾール
- e 月経モリミナ

子宮内膜症について正しいのはどれか（2006）

- a 女性の性交痛の原因になる。
- b 過多月経は特徴的である。
- c 子宮内膜組織検査が診断に有用である。
- d 初経時からの強い月経痛は特徴的である。
- e 子宮内腔癒着を伴うことが多い。

卵巣チョコレート嚢胞（子宮内膜症性嚢胞）の癌化について正しいのはどれか（2006）

- a チョコレート嚢胞の癌化は約 5%に見られる。
- b 若年者のチョコレート嚢胞は癌化しやすい。
- c 粘液性腺癌への悪性転化が多い。
- d 嚢胞の急速増大や CA125 の上昇を認めた場合には癌化を疑う。
- e 嚢胞内部の充実性部分や乳頭状突出と癌化とは関係がない。

子宮腺筋症について誤りはどれか（2006）

- a 不正性器出血が時に認められる。
- b 病巣は境界不明瞭である。
- c 内膜間質を伴わずに内膜腺組織が筋層内で増殖する。
- d 薬物療法として GnRH アナログやダナゾールが用いられる。
- e 子宮筋腫との鑑別には MRI 検査が有用である。

子宮体部の MRI T2 強調画像で誤りはどれか (2006)

- a 体部の中央に存在する高信号の部分が子宮内膜である。
- b 子宮内膜の外側の低信号の部分は squamo-columnar junction である。
- c 子宮腺筋症は筋層が低信号に描出され筋層が肥厚する。
- d 子宮体癌では子宮内膜像が肥厚する。
- e 子宮筋腫は類円形で辺縁が明瞭な腺癌として描出される。

Lecture-10 性器感染症

クラミジア感染について正しいのはどれか。2つ選べ (2007)

- a STD (sexually transmitted disease) のひとつである。
- b 時に無症候性である。
- c 子宮付属器周囲が癒着することはない。
- d 上腹部まで波及することはない。
- e 癌化と関連している。

クラミジア感染症について正しいのはどれか (2007 再試、2005)

- a 不顕性感染すなわち無症状の例は少ない。
- b 男性では前立腺炎がもっとも多く発生する。
- c 付属器炎や PID に進むと治癒しても卵管の癒痕化や狭窄により不妊症や子宮外妊娠となること
もある。
- d 扁平上皮組織に感染しやすい。
- e ペニシリン系薬剤が第一選択である。

クラミジア感染症で正しいのはどれか (2006)

- a 抵抗力の低い高齢者に多い。
- b 男性は尿道炎の症状が女性より遅く発症する。
- c ペニシリンが著効する。
- d 腎周囲の炎症で強い呼吸性疼痛をきたすものを Fitz-Hugh-Curtis 症候群という。
- e 活動期には IgA が上昇することが多い。

クラミジア感染症について誤りはどれか (2005)

- a 活動期には血清 IgA が上昇することが多い。
- b スクリーニングを含め検査は頸管粘液からの培養用が多様されている。
- c 卵管留水腫は無菌である。
- d 若年者に圧倒的に多い。
- e PID に進むと嫌気性菌感染が合併する。

カンジダ膣炎について正しいのはどれか。2つ選べ(2007)

- a 黄色帯下が特徴的である。
- b 外陰部のかゆみを伴うことが多い。
- c ウイルス感染である。
- d 糖尿病患者では起こりやすい。
- e 妊娠中は起こりにくい。

トリコモナス膣炎について正しいのはどれか。2つ選べ(2007)

- a 腹痛が主症状であることが多い。
- b トリコモナス原虫感染が原因である。
- c 同時に尿中にもトリコモナスが認められることがある。
- d 性行為では感染しない。
- e 癌化と関連している。

膣トリコモナス症につき正しいのはどれか(2005)

- a 性感染症ではない。
- b 外陰掻痒感が主訴となる。
- c 老人に好発する。
- d 検出は主にグラム染色による。
- e 原虫は白血球よりも小さい。

誤っているのはどれか(2005)

- a 外陰ヘルペスは単純ヘルペスウイルスの感染による。
- b 性器ヘルペスと口唇ヘルペスは同じ病原体で起こる。
- c 外陰ヘルペスは細胞診では診断できない。
- d 老人では性器ヘルペスが好発する。
- e 外陰ヘルペスでは接吻潰瘍が発生する。

尖圭コンジロームについて誤っているのはどれか(2005)

- a 病因はヒト乳頭腫ウイルスである。
- b 鶏冠状病変が特徴的である。
- c コイロサイトが特徴的である。
- d 膣内には発生しない。
- e 妊娠によって悪化する。

誤りはどれか、1つ選べ(2007再試、2005)

- a HIVはSTDや性器感染症があると感染しやすくなる。
- b 鼠径リンパ肉芽腫はChlamydia trachomatisに起因する。
- c HSVの垂直感染は経胎盤であり、妊娠中の外陰ヘルペスでは、新生児脳炎は予防しえない。
- d HTLV-1陽性母体の垂直感染で最も多いのは経母乳感染である。
- e 妊娠中にはカンジダ膣炎になりやすい。

正しいのはどれか (2006)

- a 抗生剤の使用でトリコモナス膣炎が発症する。
- b HTLV-1 感染症で母児の垂直感染は、経胎盤感染が圧倒的に多い。
- c HIV は STD や性器感染症が存在すると感染しやすい。
- d 妊娠中にはカンジダ膣炎になりにくい。
- e 外陰ヘルペスは HSVI 型が多い。

正しい組み合わせはどれか。1つ選べ (2007 再試、2005)

- | | |
|----------------|---------------|
| a 性器結核 | 上行性感染 |
| b カンジダ膣炎 | 菌交代現象、ステロイド汎用 |
| c トリコモナス膣炎の細胞診 | 多核巨細胞、スリガラス様核 |
| d 性器ヘルペス | アシクロビル |
| e 萎縮性膣炎 | ヨーグルト状帯下 |

組み合わせで正しいのはどれか (2006)

- | | | |
|----------------|-------|------------|
| a トリコモナス | _____ | ヨーグルト状白色帯下 |
| b カンジダ | _____ | 漿液性黄色泡沫状帯下 |
| c 老人性 (萎縮性) 膣炎 | _____ | 膣 PH 低下 |
| d 性器結核 | _____ | 上行性感染 |
| e 外陰ヘルペス | _____ | 強い疼痛 |

炎症と治療薬物の組み合わせで正しいのはどれか (2006)

- | | | |
|----------------|-------|----------|
| a 性器結核 | _____ | メトロニタゾール |
| b カンジダ膣炎 | _____ | ステロイド軟膏 |
| c 老人性 (萎縮性) 膣炎 | _____ | エストロゲン |
| d 梅毒 | _____ | アシクロビル |
| e トリコモナス | _____ | クロトリマゾール |

Lecture-11 その他の疾患

性器脱について正しいのはどれか。2つ選べ (2007、2007 再試 R)

- a 性器脱の種類の中で最も頻度が高いのは子宮単独で生じる場合である。
- b 性器脱に対する外科的治療としてペッサリーがある。
- c 膣断端脱の治療として、断端を仙骨に固定する手術が行われることがある。
- d 膀胱瘤の修復手術として前膣壁形成術が行われる。
- e 子宮脱手術後の再発に対してマンチェスター手術が行われる。

性器脱について正しいのはどれか (2005)

- a 性器脱の種類の中で最も頻度が高いのは子宮脱単独で生じる場合である。
- b 性器脱の種類の中で最も頻度が高いのは直腸瘤単独で生じる場合である。
- c 子宮脱には通常、膀胱瘤を伴うことが多い。
- d 膀胱瘤の修復には後膣壁形成術を行うことが多い。
- e 直腸瘤の修復にはマンチェスター手術を行う。

性器脱の治療としてふさわしくないのはどれか（2005）

- a ペッサリー
- b 前膣壁形成術
- c 膣断端-仙骨子宮靭帯固定術
- d 広汎子宮全摘術
- e マンチェスター手術

尿失禁について正しいのはどれか（2007、2007 再試）

- a 咳やくしゃみで誘発される失禁のタイプを切迫性尿失禁という。
- b 広汎子宮全摘術の術後には排尿困難が生じるが、尿失禁が生じることはない。
- c TVT（tension free vaginal tape）手術は特に切迫性尿失禁の治療に有効である。
- d 過活動膀胱を診断する場合、腹圧性尿失禁を伴うことが必要条件である。
- e 尿失禁の程度を判定する場合、60分パッチテストを行う。

尿失禁について正しいのはどれか（2005）

- a 咳やくしゃみで誘発される失禁のタイプは腹圧性尿失禁という。
- b 過活動膀胱の診断には尿失禁を伴うことが必要である。
- c マンチェスター手術は切迫性尿失禁の治療法の一つである。
- d 膣内へペッサリーを挿入することと尿失禁には因果関係はない。
- e 広汎子宮全摘術の術後には排尿困難が生じるが、尿失禁が生じることは少ない。

付属器炎・骨盤腹膜炎で正しいのはどれか（2006）

- a 分娩や流産後の発生は少ない。
- b 卵管留膿腫は治療後も卵管留水腫となり菌が残存する。
- c 下行性感染である。
- d 癒着性子宮後屈症の原因となる。
- e 治療後は不育症になりやすい。

子宮外妊娠が生じる部位のうちで最も頻度が高いのはどれか（2007 再試、2005）

- a 子宮頸管
- b 卵管間質部
- c 卵管膨大部
- d 卵管采
- e 腹膜

子宮外妊娠について正しいのはどれか。2つ選べ（2007 再試 R、2005）

- a 既往の骨盤内感染症は子宮外妊娠のリスクとなり得る。
- b 子宮内と卵管内に同時に妊娠が生じることはない。
- c 尿中エストロゲンの定量測定が診断に有用である。
- d 卵管妊娠の外科的治療では卵管切除のみが唯一の治療法である。
- e 卵管妊娠の保存的治療として局所への MTX（methotrexate）注入法がある。

急性腹症の原因疾患として誤りはどれか。1つ選べ(2007再試、2005)

- a 卵巣腫瘍捻転
- b 卵巣出血
- c 膣閉鎖
- d 子宮脱
- e 常位胎盤早期剥離

心身症の定義の中で、正しいのはどれか(2005)

- a 心身症はひとつの疾患として認められている。
- b 心身症は心理的および家庭的という二つの因子が関与する。
- c 心身症は病態である。
- d 心身症はうつ病や神経症の身体症状も包括している。
- e 心身症は国際疾病分類の中に登録されている。

抗癌剤の投与中に注意すべき精神症状について正しいのはどれか(2005)

- a パニック障害の発作
- b 一過性の双極性障害
- c 一過性の統合失調症
- d 適応障害
- e 心気症

心身医学について誤っているのはどれか(2005)

- a アメリカ精神医学会は心身症を定義していない。
- b 心療内科はわが国にのみ認められた独特の診療科目である。
- c 心身医学は心身症の診療を中心とした医学ではない。
- d 更年期障害は婦人科領域の心身医学的アプローチが特に重視される代表的疾患の一つである。
- e 緩和ケアはモルヒネと鎮痛補助薬の投与を行う臨床である。

乳癌について正しいのはどれか。2つ選べ(2007再試R、2005)

- a 壮年期(30-64歳)の女性の部位別癌死亡率では乳癌が最も高い。
- b 30歳以上の女性には、視触診とマンモグラフィを併用した乳癌検診(2年に1回の割合)が推奨されている。
- c 初経年齢が遅く、初産年齢が早いほど乳癌発生のリスクが高くなる。
- d 社会階層が高い女性ほど乳癌死亡率は高く、専門的職業女性では特に高い。
- e 早発閉経や若いときに両側卵巣摘出術を受けた女性では、乳癌発生のリスクは高い。

22歳の未産婦。主訴は突発的に生じた下腹部痛。最終月経は14日前から8日間であった。性器出血はない。来院時の血圧は86/58mmHg。脈拍は100回/分。眼瞼結膜に軽度の貧血。左下腹部に圧痛を認める。経膈的超音波検査で子宮内にエコーフリースペースは認めないが、ダグラス窩にはエコーフリースペースを認める。適切な判断はどれか(2005)

- a 月経の発来を認めるので子宮外妊娠は否定できる。
- b 最終月経の量が普通の月経の量と比べてどうだったかを問診することはさして意味がない。
- c 尿中hCGが陰性であれば帰宅させてよい。
- d 最も有用な検査はMRIである。
- e 外科的治療を要する可能性が高い。